

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099200026		
法人名	株式会社 よしなが		
事業所名	グループホーム マイライフ (うぐいす棟・うめ棟)		
所在地	〒822-1405 福岡県田川郡香春町大字中津原1965番地 Tel 0947-85-9623		
自己評価作成日	令和02年12月13日	評価結果確定日	令和03年02月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294
訪問調査日	令和03年02月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2019.10.1よりICT活用によりタブレット使用中。最初はなれずに大変でしたが、スタッフが慣れて来た頃よりコロナが流行り始め、ご家族へ安心をして頂ける様にマイライフのICT(ケアコラボ)へ登録お願いしました。登録していただいたスマホで、何時でも何処でも情報の共有が出来る様にご家族公開をさせて頂きました。生活状況・バイタル・行事の状況・写真等見たい部分を見る事が出来ます。面会できない不安から安心へと変わっていきました。受診時等もスマホの中に情報が網羅されているのでスマホ1台持っていけば必要な情報をDrに報告する事ができます。遠方に住まわれているご家族とはオンライン面会やリモート面会などを行っています。お話は出来なくても実際に顔を見る事で安心されます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「マイライフ」は、玄関正面に香春岳を望む自然豊かな環境の中に、8年前に開設した定員18名のグループホームである。玄関ホールや廊下には、利用者の笑顔の写真や季節毎の壁紙が展示され、明るく楽しい雰囲気である。利用者や家族の希望に沿って、4ヶ所の医院に往診を依頼し、場合によっては訪問看護師と連携しながら安心の医療体制を整えている。新型コロナウイルス感染症対策のため、面会や外出に制限のある中、納涼祭、花火大会、敬老会、ハロウィン祭等、ホーム内での楽しみを充実させて利用者の気分転換を図っている。いつでもどこでもスマートフォンで記録が共有できるケア記録システム「ケアコラボ」の導入で、利用者の身体の状態変化や日々の生活をそのまま見れる状態で、面会できない家族の不安が安心に変わり、これまで以上に家族との絆が深まっているグループホーム「マイライフ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、スタッフ入所者が一緒に唱和している。 時々、理念の意味を話し合う機会を設けている	開設時に、職員が話し合って作った、「マイライフの基本理念」を掲げ、見やすい場所に掲示し、パンフレットやホーム便りにも掲載して、理念の共有、周知に努めている。毎日、利用者と職員が理念を唱和して、笑顔で明るく元気な挨拶から一日が始まっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ感染症の為、以前出来ていた交流が出来ませんでした。リサイクル回収の協力のみ行いました(ダンボールを取り置き)	例年であれば、ふれあいフェスタへの参加、廃品回収の協力、神興祭の山車見物、保育所の子どもの太鼓演奏の慰問、高校生の実習やボランティアの受け入れを行い、「マイライフ祭り」には、たくさんの地域の方や家族の参加があり、地域との交流を活発に行っているが、今年度はコロナ禍で中止になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響にて外出・面会禁止により自粛中である為、		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議もコロナウイルス感染を考え、施設内でのみ行い、行政や地域包括支援センターには議事録・マイライフ便りを添付し持って行っています。	新型コロナウイルス感染症対策のため、ホーム内職員参加の下で行い、入居状況、行事報告、新しい取り組みについて話し合い、行政と地域包括支援センターへ議事録と「マイライフ便り」を届けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議がコロナの影響で出来ないが、担当者には現在の取り組みについて伝えている(ICT利用によりご家族へ日々の生活がスマホにて見て貰える事など)	事故があれば行政に報告し、疑問点や困難事例等の相談を行う等、連携を図っている。行政職員や地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月毎に開催する運営推進会議は現在コロナ禍の為、議事録を届ける形で実施している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設開所時より、身体拘束は行わない事をスローガンに上げ身体拘束は行わないケアを行っている。転倒のリスクが大きな入所者についてはキャッチセンサーを使用している方もいる。	職員会議や研修会の中で、身体拘束について研修を受講し、職員一人ひとりが理解を深めている。また、日常的に、気になった事、気づいた事を職員間で話し合い、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、身体拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。取り組みについての報告は運営推進会議の中で行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に、高齢者虐待についての話し合いの場を持ち、虐待になる事例等を交えスタッフに自覚してもらい、小さな虐待も見逃さないよう注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる入所者を事例に挙げ必要性・活用支援などを話し合っている	権利擁護の制度について学ぶ機会を設け、職員は制度の理解に努めている。入居時に必要と思われるケースについて、家族や地域包括支援センターと相談した事例があり、利用には繋がらなかったが、改めて制度を理解する機会になった。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行うが、契約書を読み返す家族はおられないと思う。家族には不安や疑問点についての相談を聞くようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時に施設側より意見や要望を聞くことにより聞きだせることや、ICT利用にてタイムラインの中に要望等のコメントを頂く事も有り。良い事・悪い事をスタッフや系列施設でも見る事が出来ているので上手く反映できている。	気軽に来訪してもらえるような声掛けや環境作りを心掛け、家族の面会も多かったが、現在はコロナ禍の為面会は行っていない。「ケアコラボ」を導入し、いつでもどこでも簡単に利用者の情報が共有できる体制を整備して、家族とのコミュニケーションも密に取れるようになり、意見や要望があれば反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案など出してくれる事があり代表者へ報告するとほぼ反映されている。	食事をしながら、職員会議を18時半から開催し、職員の意見や要望、心配な事等、意見が言いやすい雰囲気の中で、活発な意見交換が行われている。会議の中で、カンファレンスや研修会も実施し、職員の介護技術と、知識の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力・資格・勤務状況等を把握している。給与水準、やりがい等向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備などに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については、本人のやる気があればどんな方でも排除しないようにしている。事業所で働く職員についても自己の特性を発揮できるように配慮している。	職員の募集は、年齢や性別、経験等の制限はなく、採用後は、それぞれの経験や能力に合わせて研修参加に取り組んでいる。職員の休憩室や休憩時間、希望休等に配慮し、職員が働きやすい職場環境を整えている。管理者は、職員の特技や能力を把握し、生き生きと勤務出来るよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時に人権教育啓発活動(講師から聞いた言葉や、感じた事を話す)	利用者の人権を守る介護の在り方について話し合い、職員は、利用者一人ひとりの個性や生活習慣を把握し、それぞれに合わせた声掛けや対応に取り組み、利用者が安心して穏やかに生活出来る環境を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ICTに取り組み1年が経過していく中で、個々の力量にあわせ、慌てずゆっくり確かな事を覚えて行く様に研修を重ね日々、スキルアップできるようにしている。研修もテレビを利用し		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は、コロナの影響で研修や相互訪問などが出来ないのが実情であった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、アセスメントや情報提供書の中にはご本人の事が沢山記されている。その中でご本人との話の中で汲み取っていくことやご本人より直接聞く事で安心と信頼を確保できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	殆どの入所者は見学に来られたことのあるご家族が多く、世間話の中から困りごと・不安・要望等を聞き取り安心して預けていただけるように努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族に意向確認を行ったり直接お聞きしている。また、居室担当からも意見を聞きながら、必要と思われるサービスを提案するようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人はお客様ではなく一緒に生活する仲間として捉え、個々の持ち味、出来る事は一緒にお願いする。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へスタッフが困難事例に陥った時、ご家族の協力をお願いする事で、家族の絆の大切さを知る事を感じる(家族って良いな！)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所して直ぐの時には、知人等の面会があるが月日がたつと共に馴染みの関係が途切れていくのが実情である。今年はコロナの関係で面会自粛もあり困難な一年であった。	コロナ禍以前は、利用者の友人、知人、家族の面会も多く、ゆっくり寛いで利用者と楽しい時間が過ごせるよう支援してきた。自宅への帰宅や馴染みの場所への外出等も、新型コロナウイルス感染症対策のため、自粛している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士気の合う仲間は、座る席を近くにてお話しが出来る様に心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族がボランティアにて散髪に来てくださったたり、施設が変わってもご家族との連絡を取り相談・助言支援を行う。退所された子供さんが外国に住んでいてコロナの影響で国外へ出れないため帰省できないと電話があるなど入所されていたご家族とは何処であつても近況報告をするようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方も様々で、希望や意向をご本人より聞き取り把握していきたいのだが、ご本人より意向等聞きだせないのが実情である。そのためご本人本位に検討を行っている。	職員は、ホームでの日常会話の中から利用者の思いや意向を聴き取っている。利用者一人ひとりの個性や生活歴を把握し、家族から出来る限り多くの情報を得ながら、利用者が興味を持つ話題を提供するなどして、利用者本位の、生きがいのある暮らしの支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ICTの中に生活歴という項目がありご家族が投稿して下さっている。ご家族や職員が生活歴を聞き取りする事で利用していたサービスなどを知る事ができる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の持つ能力により過ごし方も様々である。本人のもっている能力がより上手く活用できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ICTご家族様専用ラインによりご家族の意向確認・ご本人より意向を聞く・担当者より意向を聞き、現状必要と思われる介護計画を作成している。	担当職員は、利用者、家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングで職員間で検討し、利用者一人ひとりの状態に合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また利用者の状態変化や重度化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や変化はICT(タブレット)の中にタイムラインで記録し職員間での共有により介護計画の実践状況をご家族(登録されたスマホ)と一緒に共有しながら、見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況も変化があり相談等あり、その時々状況に沿ったサービスを取り入れ柔軟に支援出来るようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナの影響で面会や外出自粛の為、苑内での楽しみを支援しました。地域にある病院の受診のみ(数名)		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人が入所前のかかりつけ医へ往診をお願いする事で、ご家族やご本人も安心して医療を受けられるようにしている。現在、往診をお願いしている医院は4箇所あり。	入居時に、利用者や家族の希望を聴いてそれぞれの主治医を決めている。以前からのかかりつけ医による往診と協力医療機関の医師による月2回の往診が出来る体制を整え、利用者の健康管理は充実している。管理者は主治医と密に情報交換を行い、信頼関係を築き利用者の医療情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調に気づきは管理者への報告を行い、最初にかかりつけ医に相談し指示を仰ぐ。また訪問看護利用や情報提供書など必要と判断した場合は他の病院へ受診できる様支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず施設管理者が付き添い必要な情報はスマホの中に入力しているのでほぼ全ての情報交換が出来る様にしている。また退院についても長期入院にならないように病院関係者と話し合い早期の退院を心がけている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入所時に話をしているが、状況が変化していく中で、状況判断する事は大変だが、主治医を交えながら当施設で出来る事・出来ない事の話し合いを進め最終判断はご家族に決めて頂く様にしている	重度化や終末期の方針については、入居時に利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と常に連絡を取りながら、主治医や訪問看護師も交えて方針を確認し、看取りが出来る系列施設での受け入れや、病院への転院等を検討しながら、ホームで出来る終末期の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の急変時の対応はマニュアルに沿って行う。また応急手当についても、日々の実践の中でスタッフも身につけている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2回／年億になっているが、今年はコロナの影響にて中止した。	年2回、スプリンクラー点検の設備業者が水消火器を持参して避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所を確認している。(今年度はコロナ禍のため中止)非常災害時に利用者の見守り等の協力を地域の方に要請し、非常食や飲料水の備蓄と医療情報をすぐに持ち出せるよう準備をしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの質に言葉かけの上手・下手はあるが、声掛けにより個々の人格・プライバシーの損失にならないよう常に気をつけている(気づいた時には注意する等)	利用者一人ひとりの人格を尊重した介護サービスについて話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮して、その人に合った声掛けや対応を心掛けている。利用者が重度化しても、個別支援を徹底して行う事で状態が改善している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者の思いは個々により違っている。 入所者の思いや自己決定が出来る様に話しをする中で聞き出し本人の言葉で表現できるように気にかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの仕事優先に成りがちだが、個々のペースにあわせ今日一日を有意義に過ごせる様に工夫をするように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々により違ってくるが、行事のときなどにスタッフより化粧をしてもらったり、外出時などは、日頃着ないような洋服をコーチネットして着てもらう事でとても喜びいきいきとした表情が見られる。(自分の好みの洋服に拘る方もおられますが)		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	開所当時より特別な時意外は、食事を作る事は無く冷凍で送られてきた食材を湯銭してに盛り付けをスタッフがやっている。 おやつなどは入所者と一緒に手作りする事有り	カロリー計算や栄養バランスの摂れた配食サービスを取り入れ、検食による意見や要望を随時挙げて改善に向けて取り組んでいる。手巻き寿司を楽しんだり、おやつ作りに挑戦する等、食を楽しめるよう工夫を重ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者の食事は、数人食事量の増加・減少有り。水分量は一日の目安として1000CC以上を確保できるようにしている。個人的に水分の取れない方についてはトロミをつける。またはゼリーを摂取してもらっている。お茶は飲みたくないという入所者は、御自分の好きなポカリスエットを自動販売機にて買って飲んでいる(スタッフ対応)		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、御自分で出来る方についてはご本人が出来る環境を整え御自分でやっている。また御自分で出来ない方については一部介助にてやっている。訪問歯科の利用により毎週または隔週にて歯科衛生士に口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中に関してはほぼ皆さんトイレでの排泄を行っている。ここの排泄パターンもICT(タブレット)にてリズム・履歴を見ながら次の誘導時間などを把握出来る様にしている	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の排泄パターンを把握して、病院から入居で車椅子やオムツ使用の方も、その日の内に外す等、自立支援に向けた排泄の支援を積極的に行っている。また、夜間帯は、利用者の希望を聴きながら、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導を行い、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの入所者の方が排便での悩みを抱えている。便秘薬を使用するタイミングや量の把握がとても困難 冷たい牛乳を飲んでもらったり歩く事などを試みているものの一番の悩みである。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の都合に合わせてながら入浴が出来る様にしている。ご本人の都合で入浴拒否等続く場合、ご家族の登録されているスマホで入浴状況を把握できるようにしているため電話やリモートにて入浴の声掛けをし協力くださるご家族もおられます。	利用者の体調や希望に合わせて入浴支援に取り組み、一番風呂が好きな方、長湯や熱い湯が好みの方等、出来るだけ配慮しながら湯船にゆっくり浸かってもらっている。入浴は、利用者と職員がゆっくり会話が出来来る貴重な時間と捉え、日頃聴けない利用者の思いを聴き取っている。入浴拒否の利用者の為に、家族が週3回電話をかけてくれる等、協力を得ながら入浴して貰えるよう取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間も個々の自由に任せ、早めに自室に帰りテレビをみたり、時には眠れずホールに出てきてすごされる入所者もおられます。就寝時間に促われずご本人の就寝時間合わせるようにしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフはタブレットの中で個々の薬情報を見る事が出来る。また変更等は記録の中でタイムラインにて見る事や個々の申し送りの中で見る事が出来る様になっている。頓用等もバイタルで内服状態がわかるようになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を知り役割としての手伝い・嗜好品（好き嫌い）なども、ケアコラボの中にご家族よりコメントを頂きる事等もある。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナにより外出が出来なかったので施設内での楽しみを増やしケアコラボ内でご家族と一緒に楽しんで頂けました。11月にやっとコスモス・紅葉見学と外出が出来ましたが、また近隣でのコロナ発症により面会禁止となっています。	新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は外出を自粛しているが、コスモス見学と紅葉狩りには出かけ、利用者の気分転換を図っている。毎朝ラジオ体操の後に、利用者と職員が一緒に散歩をする日課は継続して行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者には基本的には金銭の所持をしている方はおられません。お金を使うことを忘れないように、作ったお金を渡し母の日に好きなお菓子の買い物をしてもらいました。その時のおつりを今でも覚えている方がおられます		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話やご本人から家族への電話については何時でも対応できるようにしている。コロナにより面会の出来ない事で精神的に不安になる方がおられます 最近はリモートやオンライン面会などを行えるようにしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には入所者の写真が一杯展示された廊下を歩きながら自分の写真を見つけては嬉しそうにしている。壁紙も季節ごとに入所者の共同作業により作られ張り替えている。	広い敷地の庭園の中で鶯の声を聴くことができる、季節感あふれる環境である。環境整備は細かく丁寧に、清潔を保つようにしている。ゆったりとした造りの室内は、季節毎の装飾や利用者の笑顔の写真が一面に飾られ、自分の顔を探しながらの屋内散歩も利用者の楽しみである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを好きな入所者様は自分の見たい番組を3台あるテレビで好みの番組を見ている。気の合った利用者は座る場所も隣同士に塩話を楽しんでいる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、ほぼ皆さん新しいものを買って来てもらっているのが現状のようです。中には長く使い慣れた筆筒や寝具等をもって来られた方も折られます。	利用者の馴染みの家具や身の回りの物、大切な物を家族の協力で持ち込んで配置して貰い、自宅と違和感のない居室となるように工夫している。家族が訪問した事を忘れないように、来訪時に写真を撮って壁に貼る等、利用者の記憶を呼び起こし家族や関係者との関わりを大切にしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	類の利用者の出来る事・出来ない事・したくない事をスタッフはしっかり把握している。出来る事についてはケアプランにも反映できるようにしご本人の生き甲斐となるように支援している。		